

大学図書館と情報処理センター との連携(と統合)

土屋俊
(千葉大学)

目次

- 情報処理センターとは何か
- 最近の状況の変化
 - ネットワーク
 - 計算機の利用方法の変化
 - 教育
- 電子図書館的機能との関係

国立大学における「情報処理センター」整備の古典的展開

- 大型計算機センター(旧7帝大、1966年以来整備)
- 総合情報処理センター(1976年以来整備、1年2校)
- 情報処理センター(1年2校)
- (教育用計算機センター)(大計センター校 + 若干)

設置の趣旨と整備状況

- 大型計算機センター スーパーコンピュータ、汎用大型コンピュータ等高性能のハードウェアと多機能、高精度のソフトウェアの整備・管理を行い、科学技術計算、データ処理、学術情報データベースサービス、ソフトウェアの研究開発等を行う。
- 総合情報処理センター 多様かつ高度な各種計算需要に対応するため、比較的大規模なコンピュータシステムの整備・管理を行い、研究者の利用に供するとともに、ソフトウェアの開発、データの管理等各種支援機能を実施する。また、図形処理、データベース検索、電子メールなど多様な情報処理教育を行うとともに、プログラム作成相談に応じるなど、一般学生に対するきめ細かな情報処理教育を実施する。学内ランの管理運用を行う。
- 情報処理センター 中規模のコンピュータシステムを設置し、研究者の利用に供する。また、一般学生に対する数値計算、グラフ作成等の基礎的な情報処理教育の利用に供する。

実際の機能

- 「**計算機**」の運用
- **ネットワーク**の管理
- **情報処理教育支援**
- **その他(事務系業務、図書館業務など)**

計算機運用業務の変化

- 大型汎用計算機
 - 共同利用
 - 科学技術計算
 - 運用統計などの充実
- エンジニアリングワークステーション・パーソナルコンピュータ
 - 個人利用がもともと
 - 計算とコミュニケーション(ワープロ含む)

ネットワーク管理の諸相

- 全体を数人で面倒みる
- 電話システムとどう違うか
 - 回線と交換が分散管理
 - 計算機が制御する(これは同じでもあるが)
- ソフトウェアのバージョンアップが激しい
- 新技術がどんどん現れる
- **もはや大学に新技術はない**

「教育」からの需要

- コンピュータ・リテラシー教育の開始(1990年代半ば)
- それまでは、場所貸し業であったが、一斉授業でなく、個別学習のための環境整備ということから全学でということになって、結局センターにお鉢が回ってくる
- しかし、パソコン教育は大変である

サービスの性質 (図書館との比較)

- 図書館のサービスはユニバーサル・サービスである
 - 構成員のすべてが利用できる
 - 経費は組織が負担する
- 情報処理センターのサービスは受益者負担が原則である
 - 利用者が従量的に支払う
- しかし、今、情報処理センターのサービスがユニバーサル・サービス化しつつある

組織の性質

- 図書館

- 事務組織として運用
- 所掌が安定的
- サービスと管理が分離
- 比較的大規模
- 大学内の位置づけが比較的高い(ように思われている)

- センター

- 教官と技官の組織である
- 一人何役もの形態になっている
- 小規模
- 大学内の位置づけが低い

図書館の電算化との関係

- ネットワーク
 - 館内、館外、OPAC
- 計算機
 - CPU
 - 記憶装置
- 人員
 - 専門性の問題

文化摩擦

(情報処理センター)

(図書館)

- 受益者負担**対**ユニバーサル・サービス
- 小人数**対**多人数
- 事務部なし**対**事務部あり
- 技術への信仰**対**技術への恐怖心・不信
- プログラム**対**コンテンツ、リテラシー
- データベース**対**オンラインジャーナル
- 教官カルチャー**対**事務官カルチャー
- 研究**対**サービス
- PCユーザを知らない**対**知っている

図書館と連携・統合

- ネットワーク(もはや研究レベルと業務レベルとを区別する必要がある)
- 各種データベース(CDROM,オンライン、二次資料などは、図書館でやるしかない)
- 教育支援(そもそもセンターには教育の発想がなかった、研究中心)
- オンラインジャーナル(これは図書館でないと無理か)
- キャンパスのデジタル化(メール、ウェブ)
 - 図書館、センターにとどまらない

キャンパス情報基盤整備のスコープ

- 「コスト」の見積もり
 - 共有可能な資源がどのくらいあるか
 - サーバ計算機、ネットワーク、カウンター、端末
 - 共有可能な機能がどのくらいあるか
 - ユーザ管理、
- 大学全体の情報環境整備との連携
 - 学生関係(教務、厚生、メールなど)
 - 教員関係(委員会、事務連絡など)
 - 広報関係(ホームページなど)
- 事務関係巻き込み重要
 - でも、千葉の失敗の原因はこれ？

共同的努力の重要性

- 研究者コミュニティのなかで
 - 資料共有の思想、学術コミュニケーションへの自覚の喚起(ジャーナル問題)
- 図書館コミュニティのなかで
 - 情報共有・システム共有・資料共有の3つのレベルでのコンソーシアム(ILLも)
- 研究者コミュニティと図書館コミュニティとのあいだで
 - 選書、ジャーナル・キャンセル、学内産出資料の標準化